

連番	形態	計画	目的及び内容	実施計画	実施
1	調査	逸村教授 「日本の学術情報発信状況の調査」	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度実施の調査に引き続き、学術情報発信状況の調査を継続する。</li> <li>国立情報学研究所のリーダーシップにより行われている国際学術情報流通基盤整備事業(SPARC Japan)及び機関リポジトリ構築関連事業は平成21年度まで一定の成果を挙げた。これまでの活動により、45誌のパートナー誌、110大学の機関リポジトリが立ち上がった。</li> <li>次の飛躍を目指すために、世界のオープンアクセス状況と情報通信技術への対応と理念の再構築が必要であるが、現時点では充分には整理されていない。</li> <li>本プロジェクトは、SPARC Japanと機関リポジトリを中心とした日本及び海外の学術情報発信状況を整理し、今後の理念構築につながる報告をまとめることを目的とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPARC Japan事業を中心とする学術情報発信、機関リポジトリ構築に関わる事実と技術動向、内外オープンアクセス状況等の調査および分析、学位論文や科学研究費補助金成果の機関リポジトリ掲載に伴う問題の整理と解決へ向けてのまとめを行う。そのため、文献調査、国内外への訪問調査と議論を行い、報告書を作成する。</li> </ul>	<p>2010年2月に行なった英国訪問調査での、英国学協会およびJISC等のインタビューのテープ起こし、和訳作業、資料整理業務を実施</p> <p>2010年8月～9月にCIBER(University College London), JISC Advance, JISC infoNet&lt;ロンドン&gt;, JISC Legal(University of Strathclyde)&lt;グラスゴー&gt;を訪問し、学術情報発信を効果的・効率的に行うためのアドバイザー・サービスについて調査を行うとともに、デジタルメディアに関するユーザの行動様式に関して情報交換を行った。また、このインタビューのテープ起こし、和訳作業を実施。</p>
2	出展	化学工学会	<p>海外の研究者への宣伝活動を化学系ジャーナル10誌で合同で行うプロモーション活動である。海外の研究者へ日本のジャーナルに積極的に良い論文を投稿してもらえようように宣伝するのが主な目的である。</p> <p>平成19年度に6学会7ジャーナルで始めた本プロモーション活動は、4年目の本年度は9学会10ジャーナルとなった。毎年参加ジャーナルが増えており、本年度はAdvanced Powder Technology (粉体工学会) が新たに参加することとなった。本活動が定着することにより、参加ジャーナルが増え、宣伝効果も高まると考えられる。</p> <p>また、今年度は初めて、第27回中国化学会会議への参加費をすべて学会側で負担するなど、自発的な活動へと発展しつつある。</p> <p>3年前より、広い地域の研究者に日本のジャーナルの存在を知ってもらうために、北米、ヨーロッパとアジアの3極の主要市場で行ってきた宣伝活動を今年度も継続したい。</p> <p>【参加ジャーナル】 SPARC Japan 選定誌 (6誌) : Analytical Sciences (日本分析化学会) / Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本農芸化学会) / Journal of Bioscience and Bioengineering (日本生物工学会) / Journal of Chemical Engineering of Japan (化学工学会) / Materials Transactions (日本金属学会) / Polymer Journal (高分子学会) その他 (4誌) : Advanced Powder Technology (粉体工学会) / Bulletin of the Chemical Society of Japan (日本化学会) / Chemistry Letters (日本化学会) / Trends in Glycoscience and Glycotechnology (FCCA)</p>	<p>第27回中国化学会会議 (中国・アモイ) 出展 (2010/6/18-2010/6/22) ※本年度は、本会議への出展料を参加学会ですべてを負担して参加する。</p> <p>ACS2010年秋季大会 (米国・ボストン) 出展 (2010/8/20-2010/8/27)</p> <p>第3回ヨーロッパ化学会会議 (ドイツ・ニュルンベルク) 出展 (2010/8/27-2010/9/2) ※本会議には、SPARC選定誌より担当者を1名派遣し、人材育成を図る。また、丸善のロンドンオフィスより1名を派遣し2名体制で宣伝活動を行う。</p> <p>2010環太平洋国際化学会会議 (米国・ホノルル) 出展 (2010/12/13-2010/12/21) ※昨年度は、神戸で開催された第9回環太平洋生物化学工学会議に出展した (SPARC Japan News Letter, No. 4, pp. 10-11参照)。アジアおよび日本の研究者に、SPARC Japanの活動およびジャーナルの紹介をできたことはとても意義深いことであった。SPARC Japan化学系選定誌を発行している学会すべてが本会議の後援学会となっているなど、分</p> <p>合同カタログ、宣伝用ポスター 本活動に参加するジャーナルの合同カタログを作成し本活動およびSPARC Japanの活動を宣伝する。上記会議に配布する他、合同PRに参加する各学会の大会および国内の関連国際会議でも配布し、国内での宣伝にも努める。宣伝用ポスターは、10ジャーナルの表紙画像を中心にデザインしブースに展示する。</p>	<p>10誌で一定の規模感を持ってPRを行えた。中国南部であったせいがか冊子サンプルのはけ具合が早かった。このような地道なPR活動を繰り返し、また、顧客と直接対面することでマーケットへの浸透を図りたい。</p> <p>10誌を陳列するボリューム感はやはり大きく、通過者の目に止まることが多かった。アンケートは予想に反して沢山の方に答えていただき、総計280枚ほど集まった。バッジリーダーによる情報収集も好意的だった。</p> <p>各国の会議参加者に、見本誌及びカタログやチラシ等を配布し、日本発の学術情報誌のアピールを行った。またジャーナルの利用状況に関するアンケートを配布し、240枚を回収した。各国の研究者からは、掲載までの日数やインパクトファクター等のジャーナルデータや、日本以外からの投稿も受付可能かなど、様々な質問を受けた。日本に留学経験がある、あるいは日本との共同研究を行っている研究者からは好意的な反応があった一方で、日本語のジャーナルと誤解されることもあり、更なるPRの必要性が感じられた。</p> <p>クリアファイルにセットした合同カタログ、SPARC Japanパンフレット、各学会のプロッシュアを配布した。カタログ自体は、どの来場者もほぼ好意的に受け取ってくれており、各誌を知っていただくという目的は果たすことができたと思う。また、日本化学会の会員の先生方がブースに「ハイライト」を受け取りにみえることで国際学会での各学会の宣伝活動を知っていただく良い機会にもなったと思う。</p>

連番	形態	計画	目的及び内容	実施計画	実施
3	出展	日本数学会	<p>2010年国際数学会議（ICM2010，於：ハイデラバード、インド）において、SPARC Japan 選定誌（数学）8誌の合同プロモーションを行なう。ICMは、国際数学連合の主催で4年に一度開催される数学界最大の大会であり、フィールズ賞が授与されることから、毎回、世界中から多くの研究者が参加をする。その会場で日本発のジャーナルのプレゼンスを高めることは大いに意義のあることと思う。これまでは、プロモーションの必要性についてほとんど議論されてこなかったが、ジャーナルの電子化とともに学術誌を取り巻く環境が大きく様変わりしてきたことから、読者であり投稿者である研究者に積極的にアピールすることは、今後の日本発のジャーナルの行く末に大きなメリットとなると考え、今回、初めての試みとして、ICMにおいて日本の数学ジャーナルを世界に宣伝することを計画した。また、今後の合同プロモーションについてのノウハウを蓄積すべく、この機会に数学会から人材を派遣し実地での経験を積むことにより、これからの活動に役立てたいと考えている。</p>	<p>□3m×3mの展示エリアを確保し下記ジャーナルをPR  □宣伝用バックボード・SPARC Japan のポスターの展示  □SPARC Japan 総合カタログ/ 数学系パートナー誌共通カタログ/ 参加ジャーナルのサンプルコピーの配布  □ノベルティの配布（制作費用は日本数学会とパートナー誌が負担）</p> <p>・パンフレットの配布（制作費用は日本数学会負担）</p> <p>・参加ジャーナル：  SPARC選定誌（8誌）  Tohoku Mathematical Journal（東北大学）/ Kodai Mathematical Journal（東京工業大学）/ Nagoya Mathematical Journal（名古屋大学）/ Proceedings of the Japan Academy, Series A: Mathematical Sciences（日本学士院）/ Osaka Journal of Mathematics（大阪大学・大阪市立大学）/ Hiroshima Mathematical Journal（広島大学）/ Journal of the Mathematical Society of Japan（日本数学会）/ Publications of the Research Institute for Mathematical Sciences（京都大学数理解析研究所）  その他（3誌）  Journal of Mathematical Sciences（東京大学）/ Kyoto Journal of Mathematics（京都大学）/ Tokyo Journal of Mathematics（中央大・学習院大・慶大・明大・上智大・東海大・東京首都大・津田塾大・早大）</p>	<p>SPARC Japan の数学系パートナー誌が、International Congress of Mathematicians（国際数学会議）に出展し、4年に一度開かれる数学界最大の国際会議（ICM）において、日本発のジャーナルのプロモーション活動を行なった。（インドのハイデラバードで、9日間の日程）フィールズ賞が発表されたこともあり、3000人を超す参加者があった。</p> <p>100冊を越すジャーナルの見本誌と、数種類のカタログ、ポスターなどを展示した。その他に東工大の小島定吉教授が考案した「ペンタゴン」と名づけられた数学のオブジェも展示したためかなり注目を浴び、特に初日、2日目は何重にも人垣ができ盛況だった。展示したジャーナルや日本への関心は高く、日本で研究活動をしたいがどうしたらよいかという質問もずいぶん受けた。</p>
4	出展	UniBio Press	<p>SICB（The Society for Integrative and Comparative Biology）は、世界で最大かつ最も権威のある動物学団体の一つであり、1996年にアメリカ動物学会（American Society of Zoologists）から、現在の団体名に改まった。</p> <p>2011年1月に、ソルトレイクで年次総会が開催される予定であり、この会場において、UniBioPressを構成する生物系のSPARCパートナー誌が、合同でプロモーション及び販売促進活動を行う。昨年、シアトルで第一回の広報活動を行ったが、これにより、日本発の生物系学術情報を広く認知させ、海外へのマーケティングの強化を行い、直接、目的を同じくする海外学会の動向を知る機会をも得た。それのみならず、著者への直接的な広報活動は、非常に大きな意味を持ち、今年度も是非、広報活動を継続したいと考える。</p>	<p>SICB Annual Meeting 2011（ソルトレイク，2011年1月2-7日）へ出展し、以下の活動を行う。</p> <p>・会場の展示エリアで、各ジャーナルをPR  ・UniBioPress及び参加ジャーナルのカタログ、サンプルコピー等を配布</p> <p>・購読に関する案内  ・各学会の事情に応じたノベルティの配布</p> <p>参加ジャーナル（6誌）  日本動物学会（Zoological Science）/ 日本哺乳動物卵子学会（Journal of Mammalian Ova Research）/ 日本哺乳類学会（Mammal Study）/ 日本爬虫両棲類学会（Current Herpetology）/ 日本古生物学会（Paleontological Research）/ 日本鳥学会（Ornithological Science）</p> <p>※なお、所用経費の半額は参加学会において負担する。</p>	<p>2011年SICB 年次大会にUniBio Press（日本爬虫両棲類学会、日本鳥学会、日本古生物学会、日本哺乳類学会、日本哺乳動物卵子学会、日本動物学会）が出展した。</p>